

# 埼玉 GPN NEWS

Saitama Green Purchasing Network  
埼玉グリーン購入ネットワークニュース  
第 18 号 2017 年 3 月

～ 環境への負荷が少ない商品・サービスの優先購入を進める  
首都圏初の地域ネットワーク～

埼玉GPN NEWS 2017.3



埼玉大学学長 山口 宏樹氏

「グローバル社会に対応した地域解決型の技術研究や人材を輩出していきたい」  
埼玉大学学長 山口 宏樹氏



江田：本日はお忙しいところ、インタビューにご対応いただき誠にありがとうございます。早速ですが、本題に入らせていただきます。

大学は事業体でもありますし、研究機関でもあります、人材育成を目的とした教育機関でもあります。最先端の研究やイノベーション技術に社会から大変な期待が寄せられていると思います。そのようなアカデミアである大学が、環境面でどのような取り組みをされているのか、本日はお聞きしたいと思います。

## 地域貢献について

江田：環境報告書の「環境に関する埼玉大学方針」を拝見しました。「環境知識の提供と啓蒙を行うことにより地域貢献に寄与する」についてお聞きします。

昨年12月は市民の手作り対話集会である「低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉」にご協力いただきありがとうございました。先生方にご協力いただき内容も充実し、多くの参加者を得ることができ、大変盛況に終わることができました。今後もこのような地域貢献をぜひ推進していただきたいと思います。お考えはいかがでしょうか。

山口学長：本学では環境に関わらず、現代の課題を地域と一緒に解決していくことを基本方針として掲げています。特に防災と環境への課題解決は、大学が果たすべき役割だと思っています。先日の低炭素まちづくりフォーラムでも多くの学生が参加していましたが、このような地域社会への参加は、学生の教育の場、人材育成の場としても活用したいと思います。大学外の現場を知り関心を持ってもらうことが、学生の将来のためにも重要です。今後もこのような連携を深めたいと思っています。

江田：心強いお言葉をいただき、元気がでます。感謝申し上げます。

続いて、「環境保全に貢献する研究を推進」についてお聞きします。昨今、理系離れや環境関係の学科の進学を希望する学生が少ないとお聞きますが、埼玉大学ではいかがでしょうか。また、大学院に進学する学生

## CONTENTS

- トップインタビュー 埼玉大学学長 山口 宏樹氏 ..... 1
- 地方公共団体担当者向けグリーン購入ステップアップ講座 ..... 3
- 会員企業見学会 ..... 3
- 環境先進施設見学会 ..... 3
- 会員紹介「東京サラヤ株式会社・サラヤ株式会社」 ..... 4



省エネの取組について語る山口学長

も少なくなったとお聞きします。埼玉大学はノーベル賞を受賞された梶田隆章先生を輩出されるなど、アカデミアとしての機能を十分果たしておられると思いますが、今後埼玉大学の環境への研究や人材育成はどのようにお考えでしょうか。

**山口学長：**国立大学も予算が減ってきています。競争的な研究費のように、直ぐに答えがでるような研究には予算がつきますが、基礎研究のような長い時間をかけて結果のでるような研究にも力を入れるべきだと考えています。本学の環境研究についても、限られた予算の中で選択と集中を行い、資源を投資して成果を上げ、基礎研究も同時に進めていけるようにと取り組んでいます。

環境関連学科での教育については、環境に特化するのではなく、理想的には、あらゆる学問・学科の中に環境の視点が入るべきだと思います。人材育成は「Think Globally, Act Locally.」だと思っています。本学のキャリア教育では地域課題を協働で考える課題解決型インターンシップを行っていますが、環境はまさに合致するテーマだと思います。

### 省エネ・省資源の取組

**江田：**大学は日夜研究に励まれ、多くのエネルギーを消費されていると思います。大学はCO<sub>2</sub>大口排出事業者だと聞いています。埼玉大学の環境報告書を拝見させていただきましたが、エネルギーやごみの削減など、目標をたてて取り組みを進められております。どのようなところにポイントを置いて、取り組んでおられますか？また、エネルギーの削減やごみの分別などは、教職員や学生が一体となって取り組んで行かなければなりません、学内の周知と推進体制どのようにされているのでしょうか。

**山口学長：**本学はCO<sub>2</sub>大規模排出事業者になっており、毎年15%の削減が求められています。

建物も老朽化しており、順次省エネ改修を行っています。LED照明への交換や窓の断熱化など進めていますが、特に空調機器の更新は効果が大きいと考えています。

リサイクルも着実に進めています。特に大学は紙の排出量が多いので、ペーパーレスを目指し、パソコンでの会議や電子決裁など行っており、さらに推進したいと思っています。また、環境推進員連絡会では、省エネ対策などを電子掲示板で周知しています。なお、大学祭“むつめ祭”では、学生自らが割り箸やペットボトルの回収を行っています。

### グリーン購入の実践

**江田：**最後にグリーン購入についてお聞きします。

埼玉大学は国立大学法人ですので、グリーン購入法上、義務として取り組んでおられると思います。グリーン購入を進める上で課題や問題点はありますか？また、実績把握から今後の改善点はありますか。

**山口学長：**グリーン購入は法律で定められているので、方針と実績は公表しており、一括購入については100%達成しています。ただ、研究室単位で購入する場合もあるので、先生方には理解いただくよう求めています。

最近、社会が大学に求めるものも変わってきていますが、知を作り出すところを維持しなければ、人類の将来は無いと感じます。ますます大学の役割は重要となり、学長のリーダーシップが求められるようになっていきます。埼玉大学は、これからも知の創造・継承という大学本来の使命を果たしつつ、地域の中核拠点として、グローバル社会に対応した研究開発や地域を牽引する人材の育成、さらに社会人の学びの場の提供など多くの役割を担っていきたいと思っています。

**江田：**埼玉グリーン購入ネットワークとNPO法人環境ネットワーク埼玉は、パリ協定の発効を機に、県内の温暖化防止活動のムーブメントを盛り上げるために「パリクラブ21埼玉」を設立しました。東京オリンピック・パラリンピックのある2020年に向けて、県内の温暖化防止活動を推進していきたいと考えています。ぜひ埼玉大学様にもご協力いただければ幸いです。長時間お話をいただき、ありがとうございました。

## 地方公共団体担当者向け グリーン購入ステップアップ講座

2016年11月18日(金)、今年度も地方公共団体担当者向けにグリーン購入ステップアップ講座を開催し、県内外から13名の参加を得ました。

先に全国GPNから発表された全国地方公共団体の取り組み度の評価をもとに、それぞれが抱える課題解決のためのポイント等を全国GPN事務局長の深津学治氏に解説いただきました。



質疑応答の様子

川口市による取組事例紹介をとおり、各担当者がグリーン購入を取り組む中で悩んでいること等に対してアドバイスを行うなど、少人数制ならではの内容を提供することができました。アンケートからは「他の自治体の取組事例が聞けて良かった」、「課題が分かって良かった」などのご意見をいただきました。引き続き、皆さまのご要望に沿った内容の講座を開催していきたいと考えています。

害や停電時の非常用電源としても利用可能です。今では全国で増えつつある水上式メガソーラーですが、日本初ということもあり、今でも各所からの視察が絶えないそうです。

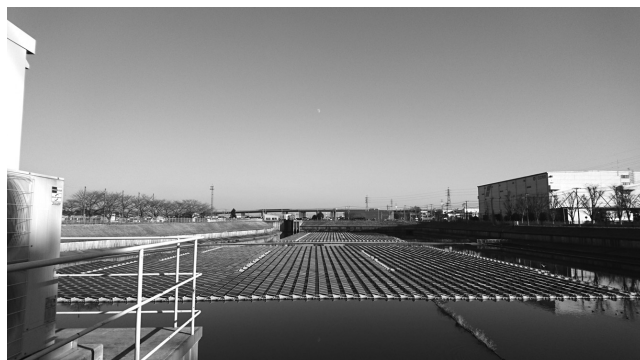


マルキユー工場見学の様子

続いて、つりエサで業界トップシェアを誇るマルキユー株式会社では、宮澤政信会長からご挨拶いただくとともに、工場内をご案内いただきました。コンピュータで管理された全自動生産マシンや、自動で効率的にストックと出荷が出来る大規模な倉庫を見ることが出来ました。釣り場の水質保全を考え、原材料は天然食品素材を使用し、魚が食べ残したものは微生物により分解され、海への環境負荷をかけないようにしているそうです。案内いただく間にも作業中の社員に名前を呼んで声をかける会長のお人柄も印象的でした。

## 会員企業見学会

2016年12月9日(金)に会員企業見学会を開催し、参加者7名で桶川市のフロート式メガソーラー「ソーラーオンザウォーター桶川」と会員企業であるマルキユー株式会社桶川工場を見学しました。



ソーラーオンザウォーター桶川全景

東部工業団地の後谷調整池に設置されたこの施設は、日本で初の水上式メガソーラーとして平成25年7月に完成しました。パネルの枚数は4,536枚で発電容量は1,200kWとなっています。水面の自然冷却効果によって発電効率が10%近くアップしており、災

## 環境先進施設見学会

2017年3月3日(金)、環境先進施設見学会を開催し、9名が参加しました。

初めに、製菓機械の営業、設計開発等やOEM事業による菓子生産を行っている株式会社マスダックを見学しました。増田社長自ら説明と工場をご案内いただきました。

食品の安心安全ガイドラインであるAIBフードセーフティに準拠した食品工場を設立するとともに『東京



株式会社マスダック

ばな奈「見つけたっ」の生産を開始し、2006年のAIB監査では最高位を取得するなど、安全管理も徹底しています。繁忙期には生産ラインが22時間稼働し多くのエネルギーを使いますが、省エネ委員会を立ち上げ室温管理や蛍光灯の間引きなど、無駄なエネルギーを使わない工夫をされています。また、トレーサビリティを導入することで食品ロスの削減にも努めているなど、貴重なお話をいただきました。



メガソーラー所沢「とことこソーラー北野」

次に、所沢市が「マチごとエコタウン所沢構想」の先導的事業及び再生可能エネルギー導入のシンボルとして、北野一般廃棄物最終処分場を利用した「メガソーラー所沢」を見学しました。埼玉県初の包括リース方式での導入により、売電による歳入の確保や、地元企業が維持管理の一部に携わるなど、地域経済への貢献を始め、様々な効果を生みだしているそうです。例えば、パネル枚数4,298枚を一望する見晴し台や啓発施設を併設することで、地元の子どもたちへの環境教育にも貢献しているなど、所沢市職員から詳しくご案内をいただきました。

## 会員紹介 「東京サラヤ株式会社・サラヤ株式会社」

サラヤ株式会社は1952年に洗浄・消毒剤の製造販売から創業しました。企業理念である世界の衛生・環境・健康の向上に貢献するため、原料調達地の環境保全をはじめ、環境衛生のコンサルティングや、関連会社と連携した環境関連事業に取り組んでいます。

主力商品であるヤシノミ洗剤の原料生産地マレーシア・ボルネオ島の環境保全活動に2004年から取り組み、対象製品の売上げの1%で野生生物の保護活動を行っています。また、2010年には、世界で初めてRSPO(持続可能なパーム油)認証油を使用した製品を開発しました。そして、2010年よりアフリカ・ウガンダで「100万人の手洗いプロジェクト」を開始し、

途上国の妊産婦や乳幼児、子どもの感染予防事業に取り組み、国際的な衛生環境の向上に貢献しています。これら海外展開の積極的な取り組みや、持続可能なビジネスへの挑戦が評価され、2014年には弊社代表取締役社長 更家悠介に埼玉県より第12回渋沢栄一賞が授与されました。

一方、国内での持続可能な社会の実現のために、資源循環社会を構築していきたいとの思いから、2015年に子会社のリサイクルジャパン(株)を設立し、埼玉県入間市に工場を開設しました。ここでは、梱包資材の



使用済みストレッチフィルムを回収し、ポリ袋になる樹脂への再生と、100%リサイクルの強度が高いポリエチレンのポリ袋の製造を行い、東京サラヤ株式会社を通じて販売を行っています。上述のリサイクルループの実現により廃棄物処理と資源確保の両面の課題解決に貢献しています。

### ■ 入会案内

団体会員、サポーター(個人会員)があります。申込書はHPからもダウンロードできます。ぜひ一緒にグリーン購入を。

今年度から入会金制度を導入いたしました。新規に入会される方は入会金をお納めいただくことになりました。ご了承下さい。入会金は会員種別(企業会員、行政会員、民間団体会員、個人会員)に応じた会費と同額となっております。

なお、次年度(2017年4月1日)より会費が値上げとなります。ご了承ください。

### ■ 発行：埼玉グリーン購入ネットワーク

〒337-0053さいたま市見沼区大和田町2-1322-2大和田NPOプラザ内  
TEL.048-749-1217/FAX.048-749-1218  
E-mail saitamagn@yahoo.co.jp  
Home Page <http://www.saitamagn.jp/>

## 地球温暖化対策、団体・企業が大集結！ 「パリクラブ21埼玉」を設立しました！

詳しくはホームページの記者発表資料をご覧ください。  
(<http://www.saitamagn.jp/img/290126.pdf>)